

令和5年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 151名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

令和5年1月

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 80.8%(122名/151名) <前回 83.6%(令和4年7月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	83	68.0%
女性	39	32.0%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	43	35.2%
沿岸南部	79	64.8%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	4	3.3%
40歳代	30	24.6%
50歳代	48	39.3%
60歳以上	40	32.8%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	66	54.1%
被災なし	51	41.8%
不明	5	4.1%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会(入居当時)、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 42名(34.4%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 36名(29.5%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 44名(36.1%)

■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が57.0%と、前回(56.8%)を0.2ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計は86.8%と、前回(84.0%)を2.8ポイント上回った。

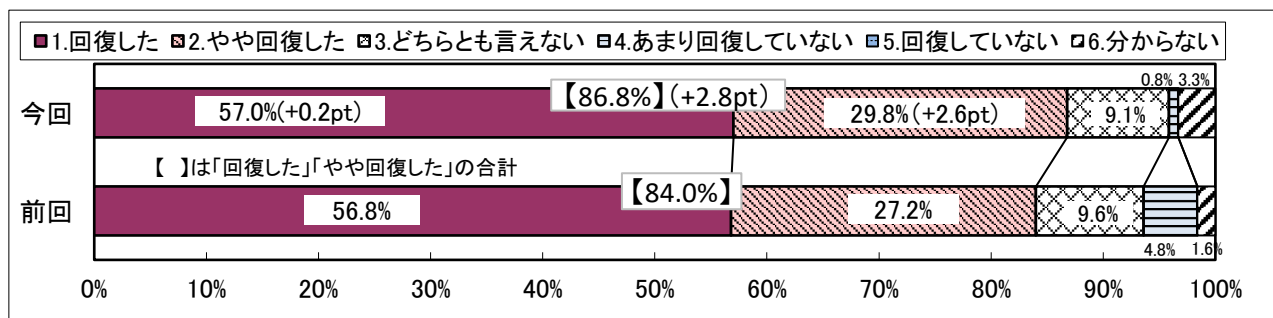
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で61.9%と前回(57.1%)を上回った一方、沿岸南部は54.4%と前回(56.6%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で83.3%、沿岸南部で88.6%とそれぞれ前回(北部80.9%、南部85.5%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は5.3ポイントと、前回(4.6ポイント)から拡大した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が35.8%と、前回(36.3%)を0.5ポイント下回った。また、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は57.5%と前回(61.3%)を3.8ポイント下回った。

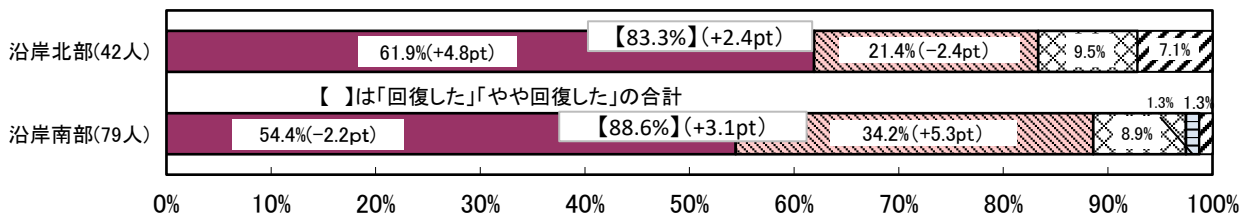
住宅の再建が進むとともに、商業地が整備されたことなどにより、生活は被災前の状態に戻り、落ち着いたとする声がある一方で、地域の高齢化や人口減少に不安を感じるという声があった。また、コミュニティの形成を課題として挙げる声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

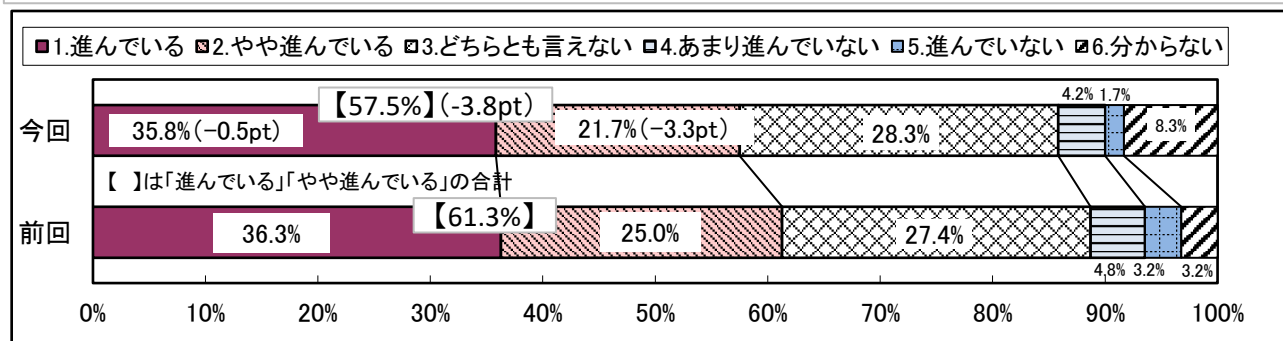


地域別

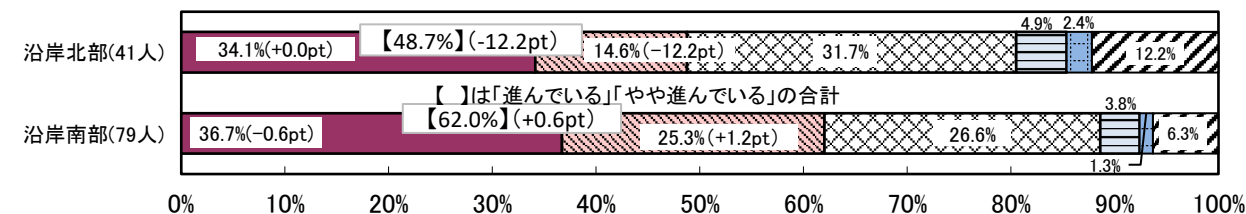


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ()内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆生活自体は、震災前と同じに戻ったと思う。住居もでき、数は減少したが商業地も整備されたので、生活環境は元に戻ったが、くらし向きはなんとも言えない。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆生活は元通りに戻った感はあるが、人口減少、少子高齢化は歯止めがかからず、商店や飲食店は少なくなって不便を感じる。復興道路も全線開通したので、交流人口の拡大に少しは期待している。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆生活も回復したように見えるし、前に進んでいるように思われる。しかし、心の中はわからないので、もう少し話をする必要があると思う。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤工事は、既に完了しているが、終了後の残土の撤去が、これから実施される見込みがたった。周囲の生活振りは、被災前と同様の水準に回復している。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆コロナ禍もあるが、その中で経済も回るようになってきている。生活も落ち着いてきていると思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆住居、仕事、家庭など、日常を取り戻しつつ、過去の振り返りよりも将来を見つめながら生活が送れているように感じ取れることが多い。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆被災の話題も少なくなり、三陸沿岸道路も全部開通となり、全体の生活が、安定している様に感じる。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p> <p>◆高齢化は進んでいるが、最近では被災した方々からは、被災をした事での生活の大変さは聞かれなくなっている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆住環境の再建、整備の観点から見れば回復したと思われるが、人口減少に歯止めがかからない現状にあることから、各自治体を中心となって移住・定住の促進や医療・福祉の充実などへの一連の取組が必要と思われる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆住環境に関しては、概ね回復したと言えると思う。その上で、生活も安定してきていると思う。これからは、新たな1歩を踏み出す時なのではと感じている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆私は高台の新たな宅地造成された地区に住居を新築して住んでいるが、私を含めて高齢者も多く、交通の便が悪く、近くには商店も無い。高齢者には不便な住環境と言わざるを得ない。震災後、人口減少が続いているが、産業振興による就労場所確保が課題である。働き場所がないと人は住めない訳であり、喫緊の課題と言える。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆コミュニティ形成は大きな課題だと思う。高齢化も進んでいるからだと思うが、部屋にこもりつきりの方が多気がする。雇用面も求人業種が偏っていて、すぐに雇用されても辞める方も多い。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆住宅の状況自体は、ほぼ回復と言えるが、違う地域への移住や集合住宅化によりコミュニティが失われたことは、特に高齢者にとっては生活の回復とはとても言えない状況である(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆ある程度の回復によって、最近の日常生活については、特に変わった様子は見られないように思う。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆普通の生活をしている様に感じられるが、その内実は相当切り詰めた生活を送っており、被災前と比較すると豊かさは実感できない。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が18.6%と、前回(23.6%)を5.0ポイント下回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計は48.3%と、前回(51.2%)を2.9ポイント下回った。

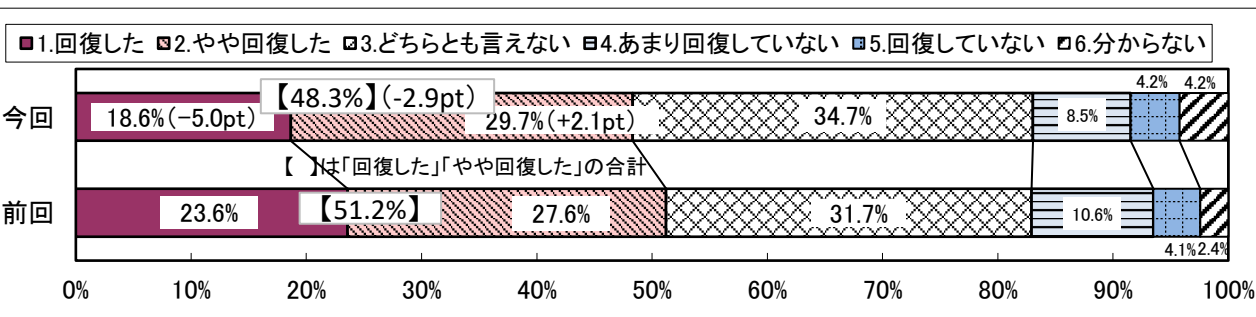
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で16.7%、沿岸南部は19.7%と、それぞれ前回(北部28.6%、南部21.0%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で45.3%、沿岸南部で50.0%と、それぞれ前回(北部52.4%、南部50.6%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の「回復した」「やや回復した」の合計差は4.7ポイントと、前回(1.8ポイント)から拡大した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が13.6%と、前回(14.8%)を1.2ポイント下回った。また、「進んだ」「やや進んだ」の合計は38.2%と、前回(33.7%)を4.5ポイント上回った。

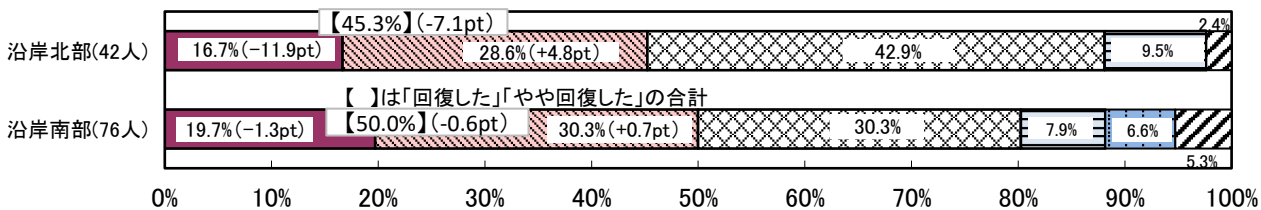
新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況の変化に伴いイベント等が開催されるようになったことや、復興道路の全線開通により物流や人的交流が拡大したことなどから地域経済の回復が進んだとする声がある一方で、水産業における不漁、復興事業の完了に伴う公共工事の減少や物価高騰など、地域経済が回復しない要因を指摘する声があった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

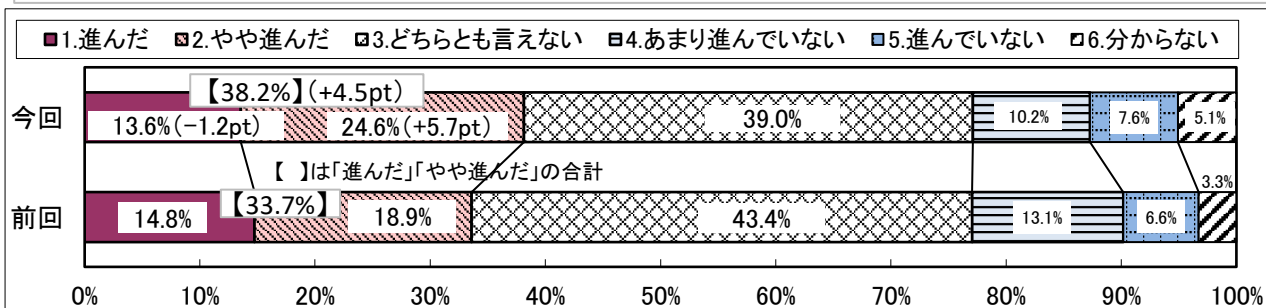


地域別

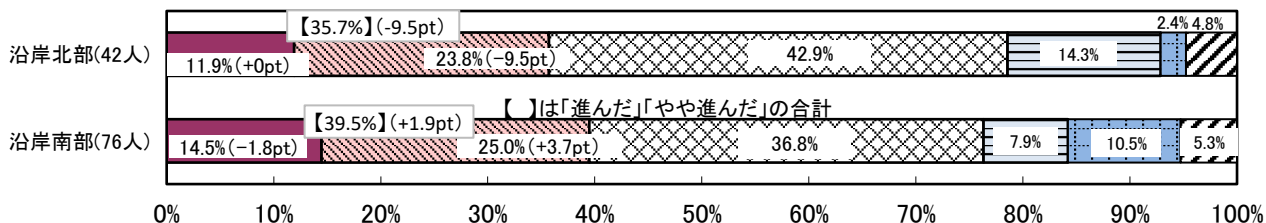


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆経済活動は回復していると感じる。物価高や、景気の良し悪しはあるが、被災とは直接関係はないと思われる。コロナ禍の状況も変化してきて、様々なイベント等も開催され、活気は出てきていると思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆震災後、ある程度回復していると思う。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響やサケの不漁・磯焼けなど別の理由で苦しい方々も見られる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆回復したので現時点でこれ以上は無い。水産業はこれ以上良くするには機械化を進めるしかない。そのための支援を早くしないとダメになっていくと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆復興道路関連事業の完成により、物流や人的交流が活発になり、地域経済にとっては良い方向に向いてきた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まってからすでに3年を経ており、地域経済に対する影響がコロナ禍によるものなのか震災を原因としているものなのか判断が難しい。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部) ◆震災から11年が経過し、ハード事業は終了し、コンビニやショッピングセンターが整備され、徐々に元の生活に戻りつつあると思われる。これからはソフト面で、自助、共助が大事になると思われる。今後は社会福祉協議会や民生委員の仕事が重要視されると思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆地域経済は回復の方向にあると思うが、人によっては新型コロナウイルス感染症の影響で売上げが悪かったり、借入れの返済があつたりで、今は厳しい人がいると思う。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆新型コロナウイルスワクチン接種及び感染防止策を行い、徐々に飲食店での外食もみられるようになったと感じる。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部) ◆震災前よりは回復したように見えるが、今だに未利用地が多くあり、将来のまちづくりがどのようになるか心配である。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆漁業の町なので漁師の皆さんが元気でないと私たちの生活が潤わない。震災後は漁師の皆さんが力を合わせて一生懸命であったが、新型コロナウイルス感染症の影響と不漁が続く休業状態である。今、秋サケの時期であるが、一本のサケも上がらないとのこと。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆新型コロナウイルス感染症の影響に加え、燃料や資材の高騰もあり、業種を問わず市況は厳しいものと思われる。事業所の撤退や廃業等が見受けられるようになってきており、一連の加速が懸念される。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部) ◆景況が悪く、正社員をパート雇用に切替えた企業や、建設業では人員整理を始めたらしいとか、厳しい話ばかりが聞こえてくる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部) ◆鉾ヶ崎地区は毎週水曜日があり、買い物客を沢山見かける。市内ではスーパーがなくなり、産業面がおもわしくないようだ。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆お盆のあたりは他県ナンバーも増えて経済効果もあったように思うが、ここ3カ月くらいでは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、あまり回復してないのではと思っている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆サンマ・サケの不漁、建設業における復興工事終了に伴う大幅な工事量の減少、ロシアのウクライナ侵攻や急激な円高の影響による物価高騰など、震災以外の理由も含め地域経済は厳しい状況にある。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆震災前に比べれば、街も整備されて新しいスーパーも営業しているが、市中心部は人通りも少なく、閉塞感を強く感じている。コロナ禍で、人的交流は減り、物価高も影響していると思うが、景気が良いとか、地域経済が回復しているという実感はない。新型コロナウイルス感染症、物価高、不漁、大雨洪水災害、人口減等震災とは関係ないことが多くあると思う。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」が29.2%と、前回（24.4%）を4.8ポイント上回った。一方、「達成した」「やや達成した」の合計は77.5%と、前回（79.7%）を2.2ポイント下回った。

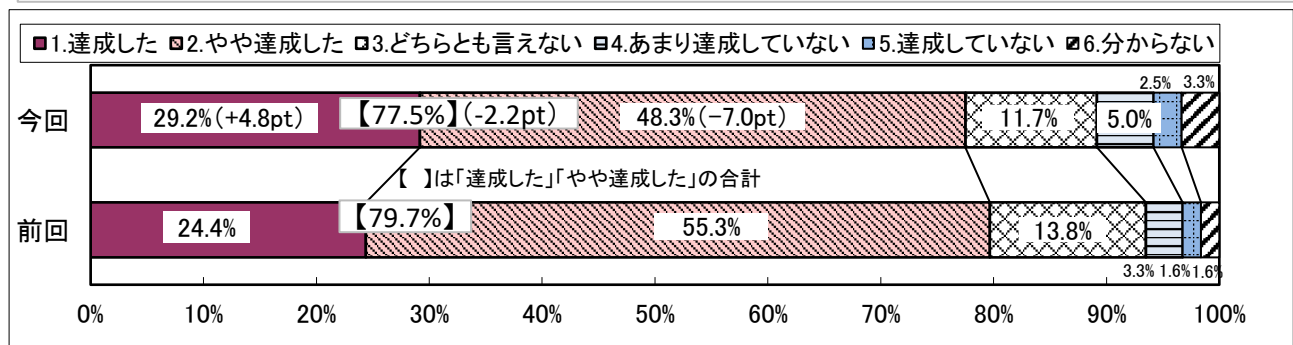
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で69.0%、沿岸南部は82.0%と、それぞれ前回（北部70.8% 南部84.1%）を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は13.0ポイントと、前回（13.3ポイント）から縮小した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が26.1%と、前回（22.8%）を3.3ポイント上回った。一方、「進んでいる」「やや進んだ」の合計は61.4%と、前回（69.1%）を7.7ポイント下回った。

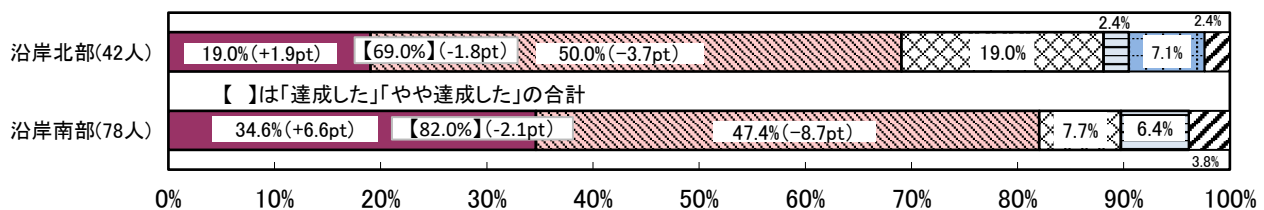
防潮堤や復興道路などハード面が整備され、災害に強い安全なまちづくりが進んだことを実感する声がある一方で、教育現場における防災教育や日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備えた地震・津波対策を進めることの重要性を指摘する声があった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

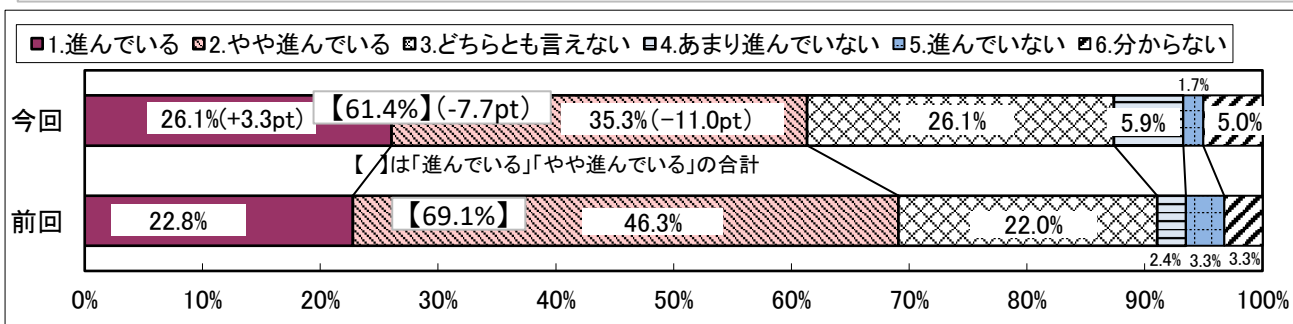


地域別

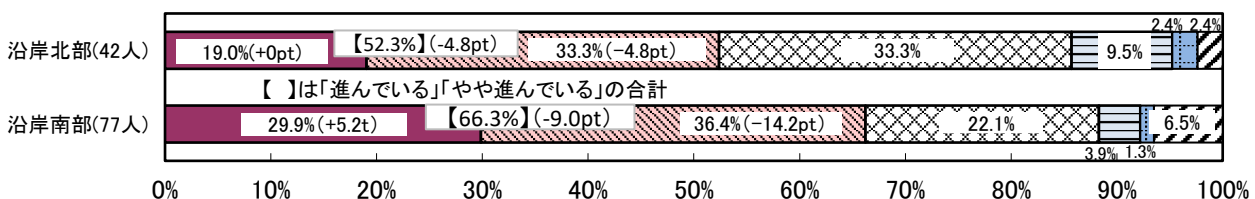


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防潮堤の工事が最終段階となり、落ち着いて暮らせるように整備され安心できる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤も整備され、ハード面は終了したと思われる。これからは事前復興に向けての行政側の対応が大事になると思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆職場で、災害時の避難場所を確認するために、実際避難場所に行ってきた。自分の目で見て覚えることは大事である。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤や道路整備等、ハード面では充実されたと感じる。今後の訓練等の充実が求められる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防潮堤の整備は確かに進んだと思うが、「災害に強い」、「安全なまち」とするためには「避難方策の充実」がまだまだ不足していると感じる。住民をまき込んだ避難訓練や、防災教育が教育現場でも必要になるのではと思う。遠くよりも、高い所へという意識付けを工夫して実施することが命を守ることに繋がっていくと思っている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆震災を知らない子どもたちへの学習も必要だと思っていたが、定期的に学ぶ機会があるようで、これから発生が予想される大地震にもある程度心構えが出来てくるのではと期待している。防潮堤も整備され、ハード面はだいぶ災害への備えができていると思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆ハード面での復旧は概ね完了しているようにも見受けられる。今後、災害に強いまちづくりを推進していくためには、DX等の先進技術を活用したスマートシティーの取組が重要になってくるものと思われる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤などハード面は整備されたが、観光地における緊急時の対応策について、もっともっと検討が必要と思う。具体的には、徒歩避難と車での避難について。高田松原から避難場所まで徒歩避難としているが、かなり距離があることから、観光客は車での避難を選択するのではないと思われる。もっともっと検討が必要。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤の完成、三陸道の開通により、安全なまちづくりは進んでいる。一方、避難訓練の参加者の増加、住民の意識を低下させない工夫は継続していかなければならない。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆三陸道の開通や、防潮堤の整備など、安全なまちづくりは達成したように思う。東日本大震災を上回る浸水地域が示され、対策が急がれる。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤や復興道路も完成した。1階が浸水するかもしれないため、2階に非常電源を置いている公共施設があると聞いた。今でもしっかりそういう想定を考えて様々なことを検討してるのだなと感じた。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆東日本大震災に関係したものは達成したと感じている。今後予想される「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」の被害想定公表によって、地域の官民において改めて震災に対する考えが芽生えてきており良い方向だと思う。ただし、完成した防潮堤や水門は、今までの震災を参考としており、今後想定される巨大地震への対応をどうするか具体的な説明もなく不安である。我が身は我で守れと言われても、高齢化社会では限界がある。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用が開始され、東日本大震災を上回る震災への対応が迫られる中、人命を守るための新たな防災への取り組みの必要性を強く感じる。(60歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆嵩上げや港湾整備等により、災害に強いまちづくりに向けた一定の整備は完了したものと史料するが、東日本大震災での想定を大きく超える津波被害を鑑みれば完全な状況とは言い難いのではないかと。また、進捗状況に関しては、インフラ整備の完了もあり、この6カ月間での進捗はあまりないものと感じている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」による新たな「岩手県津波浸水想定図」によると、当地区の津波防災センターや新しい移転住宅地が津波浸水区域になっており、住民は不安に感じている。一方、地区の自主防災組織や行政の体制は整備されてきている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

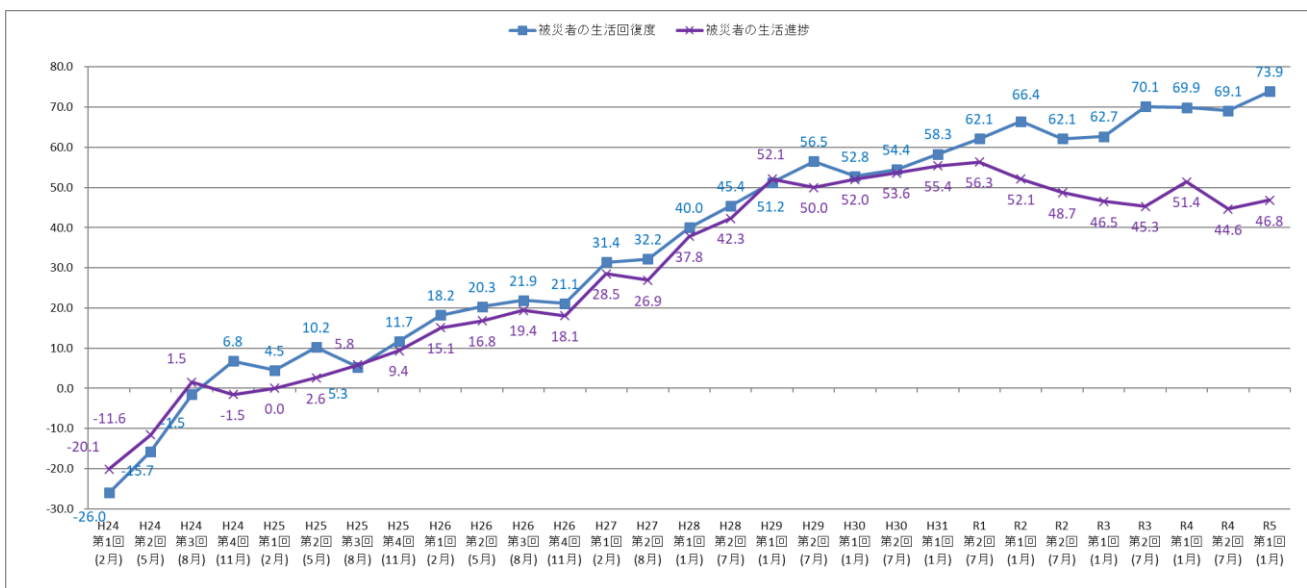
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

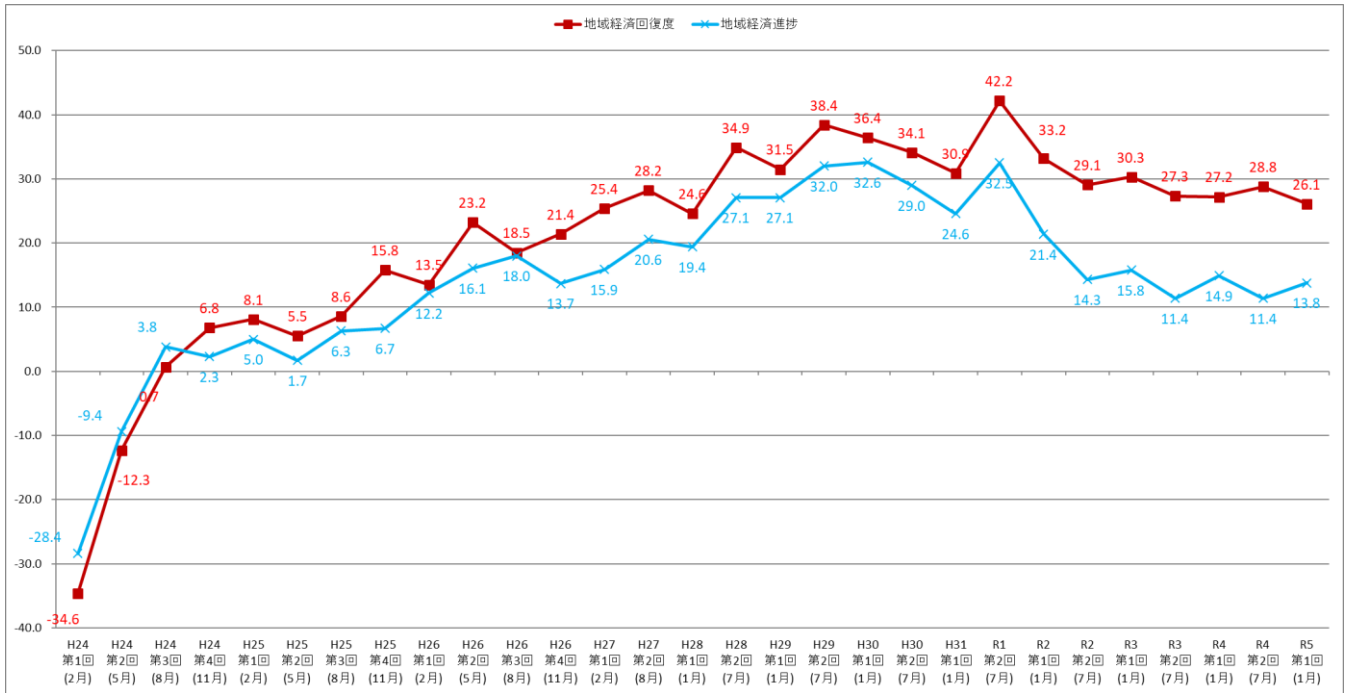
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



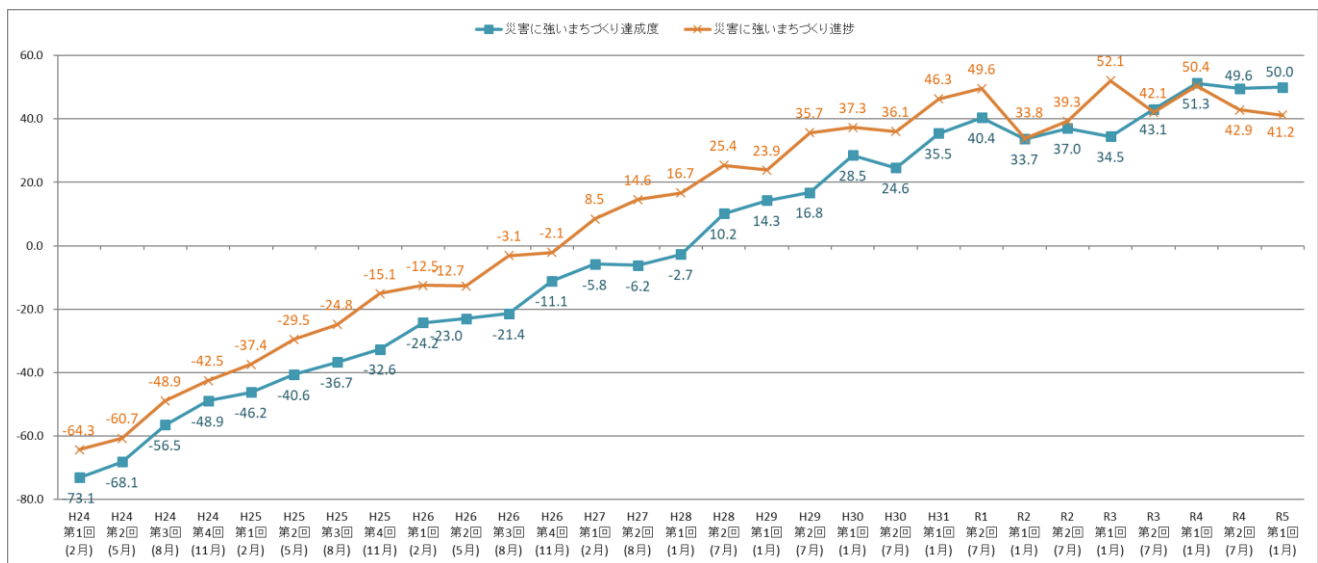
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR4年7月～R4年12月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR4年7月～R4年12月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR4年7月～R4年12月)を指す。

令和5年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和5年2月16日

岩手県

復興防災部 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6935

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363>